

## 遷延性意識障害患者に対する化粧療法の効果

自動車事故対策機構岡山療護センター

○大田 真由美、小郷 総子、守屋 和恵、松村 望東美、足立 幸枝、萬代 真哉、  
坪井 俊之、衣笠 和孜、西本 詮

【はじめに】痴呆症などの高齢者に対し化粧を行うことで、いきいきとした表情が見られ、自信や積極性の回復が得られたという「化粧療法」の報告が近年散見されるようになってきた。今回、我々は頭部外傷による遷延性意識障害患者に化粧療法を行い、同様の効果が得られるか検討した。【方法】表情が乏しく、意欲の低下のある6例に8週間化粧を実施した。開始前と開始後2週間ごとに「状態、反応スケール」「東北療護センタースコア表」を用いて患者の状態をスコアリングした。日常の行動は看護師が観察評価し、カメラで2週間ごとに表情を撮影した。【結果】状態スケールでは「周囲への関心、合目的運動」の項目で1例に、反応スケールでは「視覚反応、情動反応」の項目で2例に改善があった。東北療護センタースコア表では「自力移動、自力摂取、便尿失禁状態、眼球の動きと認識度、簡単な従命と意志疎通、表情変化」の項目で4例に改善があった。また「笑顔やすました顔が現れるようになった」「手鏡を離さず顔を見つめた」等、従来にはない表情や積極的な行動が観察できた。【考察】化粧療法により6例中5例で何らかの改善を認めた。これは化粧をすることによって自分への関心が強まり、周囲からも注目され、これまでの生活にはなかった新たな感覚や情動刺激が加わり、「積極性の向上」「気分の高揚」「自信の回復」等の効果が得られたためであると考えられた。文献には食欲、睡眠の改善、免疫力の向上などの効果も報告されており、今後症例を増やし多面的な効果についても検討する必要があると思われる。【結語】化粧療法は、頭部外傷による遷延性意識障害患者に対しても有用であると思われる。